

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4204383号
(P4204383)

(45) 発行日 平成21年1月7日 (2009.1.7)

(24) 登録日 平成20年10月24日 (2008.10.24)

(51) Int.Cl.	F I
H O 4 R 17/00 (2006.01)	H O 4 R 17/00 3 3 0 J
A 6 1 B 8/00 (2006.01)	A 6 1 B 8/00
G O 1 N 29/24 (2006.01)	G O 1 N 29/24

請求項の数 9 (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2003-141568 (P2003-141568)	(73) 特許権者	597175031
(22) 出願日	平成15年5月20日 (2003.5.20)		有限会社ジーエスケー
(65) 公開番号	特開2004-248244 (P2004-248244A)		東京都府中市南町3丁目44番43号
(43) 公開日	平成16年9月2日 (2004.9.2)	(74) 代理人	100102668
審査請求日	平成18年5月11日 (2006.5.11)		弁理士 佐伯 憲生
(31) 優先権主張番号	特願2002-145426 (P2002-145426)	(72) 発明者	波田野 光明
(32) 優先日	平成14年5月20日 (2002.5.20)		東京都府中市南町3-44-43 有限会 社ジーエスケー内
(33) 優先権主張国	日本国 (JP)		
		審査官	志摩 兆一郎
		(56) 参考文献	特開平11-252695 (JP, A) 特開昭62-115197 (JP, A)
		(58) 調査した分野 (Int.Cl., DB名)	H04R 17/00

(54) 【発明の名称】 超音波圧電振動子用部材

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

100重量部の非塩素系のゴム成分、50～3000重量部の充填剤及び1～100重量部の配合剤から成るゴム系複合材料から成る超音波測定機器の圧電振動子用バックング材であって、当該ゴム系複合材料の硬さが、JIS K6253に準拠したスプリング硬さ試験機（デュロメータ硬さ）でタイプAデュロメータで70度（A70）からタイプDデュロメータで70度（D70）までの硬さであり、且つ、比重が1.21～7.0であることを特徴とするゴム系複合材料から成る超音波測定機器の圧電振動子用バックング材。

。

【請求項2】

ゴム系複合材料のゴム成分が、非塩素系の加硫ゴム及び／又は熱可塑性エラストマーである請求項1に記載の圧電振動子用バックング材。

【請求項3】

ゴム系複合材料のゴム成分が、エチレンプロピレンゴム（EPDM又はEPM）、水素化ニトリルゴム（HNBR）、又はニトリルゴム（NBR）の1種又は2種以上を含有するものである請求項1又は2に記載の圧電振動子用バックング材。

【請求項4】

ゴム系複合材料のゴム成分が、2種以上のゴム成分のブレンドゴムである請求項1～3のいずれかに記載の圧電振動子用バックング材。

【請求項5】

ゴム系複合材料のゴム成分が、EPDM並びにHNBR及び/又はニトリルゴム(NBR)のブレンドゴム、又は、NBRと高スチレンゴム(HSR)とのブレンドゴムである請求項1~4のいずれかに記載の圧電振動子用バックング材。

【請求項6】

請求項1~5のいずれか一項に記載の圧電振動子用バックング材で圧電体が固着されている圧電体。

【請求項7】

圧電体がセラミックス系である請求項6に記載の圧電体。

【請求項8】

請求項6又は7に記載の圧電体を使用している超音波測定用端子及び超音波測定用プローブヘッド。

10

【請求項9】

請求項8に記載のプローブヘッドを用いた超音波診断装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、圧電体の固定台などとして使用されるバックング材に関する。より詳細には、本発明は、超音波測定用の圧電体バックング材に関する。さらに詳細には、本発明は超音波診断装置における測定端子の超音波プローブヘッド中の圧電体バックング材に関する。

【0002】

20

【従来の技術】

圧電体、特にセラミックス系の圧電体が種々の工業製品、例えば、医療用の超音波診断装置の超音波プローブヘッドなどに広く使用されてきている。これらの圧電体は、厚さ約0.1~0.5mmの板状に加工されており、圧電体自身のみでは機械的強度を保つことができないので、圧電体をバックング材に固着させて使用されている。バックング材の使用により、圧電体の機械的強度や加工性など改善される。

【0003】

従来、バックング材として比較的高硬度のゴム加硫物が使用されている。特性的には、硬さがJIS K6253のタイプAデュロメータで90~95度であり、比重が1.25~3.23のものが使用されていた。これらの音響インピーダンスの実測値は2.2~6.0程度と大きく、小さい音響インピーダンスを求められる用途には、まずバックング材の比重を小さくすることが重要で、この点で特開平11-252695号による発明品は実用に供されて高く評価されている。しかし、例えば、医療用機器などに於いても、その設計仕様によって様々な音響インピーダンスの要求がある。従って、これらの要求をカバーするためには、特開平11-252695号よりもさらに高い側へシフトした比重品を準備する必要がある。

30

高い比重品としては、従来主にクロロブレン系ゴムを用いたものが利用され、それは比重1.2~3.2、音響インピーダンス2.2~6.0レベルのものであった。このバックング材のゴム成分としてクロロブレン系ゴムなどの塩素系弾性体を使用したものは、通常、比較的バランスの良い諸特性を保有する材料として位置づけられてきた。それは例えば、耐熱、耐オゾン、耐油性などが他のエラストマ材料と比較して、平均的には中~中上程度に評価されて利用されているものであり、これは基本的に塩素を持ったエラストマーの大きな特徴であった。しかし最近、環境汚染問題が大変厳しい社会状況下であり、特に塩素が基因するダイオキシン及びその同族化合物について、それらを発生させない最大限の注意が必要である。製造から耐用後の廃棄に至るまでのトータルで、これらを回避する為の対策が求められる。

40

最善は、ダイオキシン類発生のおそれのある諸材料は使用しないことであるが、少なくとも主材料や主成分として塩素系弾性体等は使用しない考え方が、本発明の基本要点である。さらに又、通常、従来品のクロロブレン系ゴムのような塩素系弾性体は長期、或いは高温などにより、塩素系弾性体の中の塩素が脱離してくるので、このため塩素系弾性体に脱

50

離してくる塩素を補足するための塩素補足剤が配合されている。このような塩素補足剤としては、通常マグネシウム（Mg）系のもの、例えば酸化マグネシウム（MgO）などが使用されるが、これ自身の問題並びに塩素との反応生成物である塩化マグネシウム（MgCl₂）は水と水和しやすい特性があるため、ゴム成形品の長期又は高温での耐水性では問題となってくる。したがって、水溶系薬剤、洗浄剤などと接するようなケースではバックリング材が吸水することでその寸法変化や固着した圧電体との界面で剥離につながる様な不具合を発生させやすく、市場でトラブルが報告されている。

【0004】

また、非塩素系のゴム成分を使用した場合には、耐久性向上、例えば、耐酸素・オゾン性、耐水性、耐水系液剤性などで優れてはいるが、耐化学薬品・油剤性に不安があり又、比重が小さいものは製造上でのロール混練性、電熱プレス成形工程で細心の注意が必要となる。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、比重が大きく、且つ耐化学品・油剤性、耐酸素・オゾン性、耐アルコール性、耐水性、耐水系液剤性などの耐久特性に優れたバックリング材であり、さらに成形の寸法精度や、カット加工性などにも優れた合成ゴム系等から成る超音波圧電振動子用バックリング材を提供するものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本発明者らは、比重が大きく、かつ耐化学品・油剤性、耐酸素・オゾン性、耐アルコール性、耐水性、耐水系液剤性などの耐久特性に優れたバックリング材であり、さらに成形の寸法精度や、カット加工性などにも優れた超音波圧電振動子用バックリング材を開発するために、種々検討してきたところ、特定のゴム成分、好ましくは非塩素系ゴム成分に充填剤を配合したゴム系複合材料が優れた特性を有することを見出した。

【0007】

即ち、本発明は、JIS K6253に準拠したスプリング硬さ試験機（デュロメータ硬さ）におけるタイプAデュロメータでA70からタイプDデュロメータでD70までの硬さを有し、且つ比重が1.21～7.0であるゴム系複合材料から成る超音波測定機器用の圧電振動子用バックリング材に関する。

また、本発明は、前記圧電振動子用バックリング材が固着されてなる圧電体、それを用いたプローブヘッド、及びそれを用いた超音波測定機器に関する。

【0008】

本発明の圧電振動子用バックリング材は、ゴム系複合材料からなるものであり、その形状は圧電体や圧電体を含むプローブヘッドの形状に応じて、適宜選択することができる。

図1に、本発明のバックリング材を使用したプローブヘッド内の主要部の断面図を例示する。図1の1で示される部分が本発明のバックリング材であり、2が圧電体である。バックリング材1と圧電体2とは固着しており、例えば、エポキシ樹脂などを用いて接着されているもよい。

圧電体2と被検体（図1中には示されていない。）との間に、音響レンズ部3が存在する。音響レンズ部3は特に制限されるものではなく、被検体や圧電体の特性に応じて適宜設計することができる。

【0009】

本発明のバックリング材のゴム系複合材料は、ゴム成分及び充填剤を含有する、JIS K6253に準拠したスプリング硬さ試験機（デュロメータ硬さ）におけるタイプAデュロメータでA70からタイプDデュロメータでD70までの硬さを有するものであり、さらに、必要に応じて各種の他の配合剤を添加することもできる。

ゴム成分としては、非塩素系ゴム成分であって、例えば、エチレンプロピレンゴム（EPDM又はEPM）、水素化ニトリルゴム（HNBR）、EPDMとHNBRのブレンドゴム、EPDMとニトリルゴム（NBR）のブレンドゴム、NBR及び/又はHNBRと高

10

20

30

40

50

スチレンゴム（HSR）のブレンドゴム、EPDMとHSRブレンドゴムなどが好ましい。より好ましくは、エチレンプロピレンゴム（EPDM又はEPM）、水素化ニトリルゴム（HNBR）、EPDMとHNBRのブレンドゴム、EPDMとニトリルゴム（NBR）のブレンドゴム、NBR及び/又はHNBRと高スチレンゴム（HSR）のブレンドゴム、EPDMとHSRブレンドゴムなどが挙げられる。

本発明のゴム成分は、加硫ゴム及び熱可塑性エラストマーなどのゴム成分の1種を単独で使用してもよいが、ブレンドゴムのように2種以上のゴム成分をブレンドしたブレンドゴムが好ましい。また、本発明のゴム成分は、非塩素系のゴム成分からなるものが好ましい。

【0010】

10

本発明のゴム成分としては、塩素を持ったエラストマー、例えば、クロロプレンゴム（CR）を使用しないのが好ましい。本発明のゴム成分として非塩素系のゴム成分を使用することにより、後述する試験例に示されるようにゴム複合材料の吸水特性を小さいものになっている。

また、本発明は、また、他の耐久特性の向上も行った。耐油、耐薬品性で、クロロプレン（CR）系ゴムよりも一般的に優れているニトリルゴム（NBR）又は水素化ニトリルゴム（HNBR）を主剤に使用すること、さらに耐酸化性、耐オゾン性という点を同時に満足するためにその一部としてエチレンプロピレンゴム（EPDM）をブレンドして使用するのが好ましい。

【0011】

20

本発明のゴム成分に添加される充填剤としては、通常使用されているものから比重の大きいものに至るまでその配合量と共に様々な形で選ぶことが出来る。例えば、亜鉛華、チタン白、ベンガラ、フェライト、アルミナ、などの金属酸化物、炭酸カルシウム、ハードクレイ、ケイソウ土などのクレイ類、炭酸カルシウム、硫酸バリウムなどの金属塩類、ガラス粉末など、又各種の金属系微粉末類が挙げられる。これらの充填剤は、種々の比率で添加することができるが、好ましくはゴム成分100重量部に対して50～3000重量部、より好ましくは100～2000重量部、または300～1500重量部程度が好ましい。また、これらの充填剤は1種又は2種以上を組み合わせで添加してもよい。好ましくは、2種以上の充填剤をブレンドして添加される。

【0012】

30

本発明のゴム系複合材料には、さらに他の配合剤を必要におうじて添加することができる。このような配合剤としては、加硫剤、架橋剤、硬化剤、それらの助剤類、劣化防止剤、酸化防止剤、着色剤などが挙げられる。例えば、カーボンブラック、二酸化ケイ素、プロセスオイル、イオウ（加硫剤）、ジクミルパーオキシド（Dicup、架橋剤）、ステアリン酸などを配合することができる。

これらの配合剤は必要に応じて使用されるものであるが、その使用量は、一般にゴム成分100重量部に対しそれぞれ1～100重量部程度であるが全体的バランスや特性によって適宜変更することもできる。

【0013】

40

本発明のゴム成形品は、ゴム成分、充填剤、配合剤などを単に混合して製造することもできる。混合方法としては特に制限はなく、例えば、混練りロールなどを用いて混合することができる。混合後、必要に応じて電熱プレスと金型などを用いて常法により例えば150～180、10～50分にて加硫することができる。

【0014】

本発明のゴム系複合材料は、熱、オゾン、機械加工油、潤滑系オイル、各種洗浄液剤、アルコール、水などに対し優れた耐久特性を有し、耐化学品・油剤性、耐酸素・オゾン性、耐水性、耐水系液剤性などの耐久特性に優れた超音波圧電振動子用バックリング材として使用することができる。また、比重も1.21～7.0であることから、音響特性においても従来品と同等又はそれ以上のものが得られる。さらに、成形の寸法精度や、カット加工性などにも優れ、成形性に優れ圧電体にも完全に固着することが可能となる。

50

【 0 0 1 5 】

本発明のゴム成形品は、そのままでも圧電体用バックリング材として使用することもできるが、表面をポリウレタン樹脂コーティングなどの薄膜、他の有機系薄膜（好ましくは、0.5 mm以下）でコーティングして使用することもできる。

特に、充填剤を多量に配合した場合には、ゴム成形品に脆さが生じることもあり、この脆さを解消する手段として、前記のコーティングが有効な手段となる。

【 0 0 1 6 】

本発明の圧電体は、前記したバックリング材を圧電体に固着させることにより製造することができる。圧電体としては、セラミックス系のものが主用される。また、固着の方法としては、エポキシ樹脂などの接着剤を用いて接着させるのが好ましい。

10

本発明のプロブヘッドは、前記したバックリング材を固着してなる圧電体を、好ましくは音響レンズ部を有するプロブヘッドの部材に組込むことにより製造することができる。組込む方法には、特に制限はなく、常法により行うことができる。

本発明に関する超音波診断装置は、前記したバックリング材を固着してなる圧電体が組込まれたプロブヘッドと超音波装置本体及びそれらを接続する接続部材からなるものである。本発明の超音波測定機器としては、特に医療用の超音波診断装置が好ましいがこれに限定されるものではない。さらに本発明の超音波測定機器は耐水性や耐薬品性に優れ、内視鏡として使用することもできる。

【 0 0 1 7 】

【 実施例 】

20

以下、実施例により本発明をより具体的に説明するが、本発明はこれら実施例により何ら限定されるものではない。

【 0 0 1 8 】

実施例 1 （ゴム複合体材料 1 ～ 4 の製造）

次の表 1 に示す配合比（重量部）でゴム成分、充填剤、及び各種の配合剤を混合してゴム系複合材料を製造した。

得られたゴム系複合材料の硬さを、J I S K 6 2 5 3 に準拠したスプリング硬さ試験機（デュロメータ硬さ）におけるタイプ A デュロメータ、及びタイプ D デュロメータで測定した値、及びゴム複合材料の比重、並びにその音響インピーダンスを併せて表 1 に示す。

【 0 0 1 9 】

30

【 表 1 】

No.		1	2	3	4
JSR EP57C	(EPDM)		4 0	3 0	3 0
JSR 0061	(HSR)	3 0			
JSR N237H	(NBR)		6 0	7 0	7 0
NZ ZP2010	(HNBR)	7 0			
ステアリン酸		1	2	2	2
老防 BHT		1 . 5	2	2	2
カーボンブラック		2			
亜鉛華	(ZnO)	5	5 0	2 0 0	3 0 0
チタン白	(TiO ₂)	1 0			
ベンガラ			3 5 0	7 0 0	4 0 0
白艶華	(CaCO ₃)	7 0			
ハードクレー					
ケイソウ土		1 0 0	1 0 0		
硫酸バリウム	(BaSO ₄)		1 0 0	1 0 0	1 0 0
アルミナ (粉)	(Al ₂ O ₃)	5 0			
ガラス (粉)		5 0			4 0 0
トリメチルプロパントリアクリレート	(TMPT)	1 5	7	7	7
7°メスオイル PW-90					
可塑剤 DIDP			2 5		2 5
可塑剤 TOTM		2 5		3 0	
Dicup 40C		6	7	5	7
硬さ	タイプA	9 6	9 9	9 5	9 5
	タイプD	3 5 ~ 3 8	6 0 ~ 6 4	4 0 ~ 4 3	3 7 ~ 4 1
比重		1 . 6 8	2 . 5 5	3 . 3 3	3 . 4 5
音響インピーダンス		2 . 7	4 . 4	5 . 3	6 . 1

【 0 0 2 0 】

比較例 1

クロロプレン (C R) 系ゴムを用いて、比重、約 3 . 2、音響インピーダンス 5 . 5 レベルのゴム複合材料を製造した。

【 0 0 2 1 】

試験例 1 (耐水性試験)

実施例 1 で製造したゴム複合材料 3 及び比較例 1 で製造した従来品を、 3 0 の水に 7 日

間浸漬し、その重量変化 % を測定した。

その結果を、次の表 2 に示す。

【 0 0 2 2 】

【 表 2 】

	従来品 (C R 系)	複合材料 3
吸水率 (%)	+ 1 . 0	+ 0 . 0 5

10

20

30

40

50

この結果のとおり、複合材料 3 は従来品の 20 倍という耐水性である。

【0023】

試験例 2 （耐油性試験）

実施例 1 で製造したゴム複合材料 2 及び比較例 1 で製造した従来品を、ASTM - D 471 のIRM 903 オイル（40 ）に浸漬し、7 日後にそれぞれの重量変化を測定し、その変化率（％）を次の表 3 に示す。

【0024】

【表 3】

	従来品（CR 系）	複合材料 2
重量変化率（％）	+ 2. 6	+ 1. 1

10

この結果のとおり、複合材料 2 は従来品の 2 倍以上という耐油性である。

【0025】

試験例 3 （劣化性試験）

実施例 1 で製造したゴム複合材料 2、比較例 1 で製造した従来品、及びニトリルゴム（NBR）を単独で使用したゴム複合材料を、オゾンが 50 ppm 存在する環境に 120 時間放置した。約 20％伸長したときの亀裂の発生状態を観測した。なお、本発明のゴム複合体は実施例にある如く高硬度品であるために、20％伸長での試験は現実には困難であったので、それぞれのエラストマー構成（単体及びブレンド）を基本にした上で配合剤を調整し、デュロメータ A 65～70 にしたものを利用して試験した。

20

結果を次の表 4 に示す。表 4 中、三角印は亀裂がやや生じたことを示し、バツ印は亀裂が生じたことを示し、二重丸印は亀裂が全く生じなかったことを示す。

【0026】

【表 4】

	従来品（CR 系）	NBR 単体	複合材料 2
キレツ発生状態	△	×	◎

30

【0027】

【発明の効果】

本発明は、特定の硬さ及び比重を有する複合ゴム材料を使用することにより、音響インピーダンスが適正で、且つ耐化学品・油剤性、耐酸素・オゾン性、耐アルコール性、耐水性、耐水系液剤性などの耐久特性、特に耐水性や耐水系液剤性などに優れたバックング材であり、さらに成形の寸法精度や、カット加工性などにも優れた合成ゴム等系から成る超音波圧電振動子用バックング材を提供するものである。

40

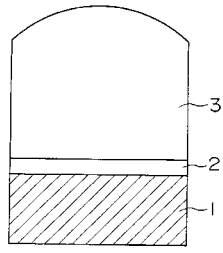
【図面の簡単な説明】

【図 1】図 1 は、本発明のバックング材を用いたプローブヘッド部分の断面図を示す。

【符号の説明】

- 1 本発明のバックング材
- 2 圧電体
- 3 音響レンズ部

【図 1】



专利名称(译)	超声波压电振子的成员		
公开(公告)号	JP4204383B2	公开(公告)日	2009-01-07
申请号	JP2003141568	申请日	2003-05-20
[标]申请(专利权)人(译)	Jiesuke		
申请(专利权)人(译)	有限公司Jiesuke		
当前申请(专利权)人(译)	有限公司Jiesuke		
[标]发明人	波田野光明		
发明人	波田野 光明		
IPC分类号	H04R17/00 A61B8/00 G01N29/24		
FI分类号	H04R17/00.330.J A61B8/00 G01N29/24		
F-TERM分类号	2G047/EA20 2G047/EA21 2G047/GB23 2G047/GB32 2G047/GB36 4C601/EE10 4C601/EE23 4C601/FE01 4C601/GB02 4C601/GB31 4C601/GB41 4C601/GB44 4C601/GB45 5D019/BB12 5D019/FF04 5D019/GG06		
代理人(译)	佐伯 宪生		
优先权	2002145426 2002-05-20 JP		
其他公开文献	JP2004248244A		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：为由合成橡胶系统等构成的超声波压电振动器提供背衬材料，该背景材料提高了成型的尺寸精度或具有大比重且具有优异的耐久性特征的背衬材料的切割加工性，例如耐化学性/耐油性，耐氧/耐臭氧性，耐醇性，耐水性和耐水溶液性。ŽSOLUTION：用于声波测量仪器的压电振动器的背衬材料由橡胶复合材料组成，其硬度从A70型A硬度计到D70型D型硬度计，符合JIS K6253标准弹簧硬度计（硬度计）硬度），其中比重为1.21至7.0。本发明包括通过将用于压电振动器的背衬材料固定到其上而获得的压电体，使用该压电体的探头和使用该压电体的超声波测量仪器。Ž

No.		1	2	3	4
JSR EP57C	(EPDM)		4 0	3 0	3 0
JSR 0061	(HSR)	3 0			
JSR N237H	(NBR)		6 0	7 0	7 0
NZ ZF2010	(HNBR)	7 0			
ステアリン酸		1	2	2	2
老防 BHT		1 . 5	2	2	2
カーボンブラック		2			
亜鉛華	(ZnO)	5	5 0	2 0 0	3 0 0
チタン白	(TiO ₂)	1 0			
ベンガラ			3 5 0	7 0 0	4 0 0
白艶華	(CaCO ₃)	7 0			
ハイドクレー					
ケイソウ土		1 0 0	1 0 0		
硫酸バリウム	(BaSO ₄)		1 0 0	1 0 0	1 0 0
アルミナ(粉)	(Al ₂ O ₃)	5 0			
ガラス(粉)		5 0			4 0 0
トリメチロ-ル*ロハ*ン トリアクリレート	(TMPT)	1 5	7	7	7
ア*ロセイル PW-90					
可塑剤 DIDP			2 5		2 5
可塑剤 TOTM		2 5		3 0	
Dicup 40C		6	7	5	7
硬さ タイプA		9 6	9 9	9 5	9 5
硬さ タイプD		3 5 ~ 3 8	6 0 ~ 6 4	4 0 ~ 4 3	3 7 ~ 4 1
比重		1 . 6 8	2 . 5 5	3 . 3 3	3 . 4 5
音響インピーダンス		2 . 7	4 . 4	5 . 3	6 . 1